

あいぽーと通信

令和元年
(2019)
6月発行
第49号

トピックス
Topics

- あいぽーとフェスティバル'19
- 特集：認知症を理解しよう～寄り添い方と介護のコツ～
- 認知症に関する図書・DVD情報
- 障がい者問題学習
- あいぽーと徳島 イベント情報など

あいぽーと徳島では、さまざまなイベントを開催しています!

あいぽーとフェスティバル'19

開催日 平成31(2019)年4月6日(土)実施
会場 沖洲マリンターミナルビル

平成31(2019)年4月6日(土)、沖洲マリンターミナルビルにて、多くの団体、ボランティアの方のご協力をいただき、「あいぽーとフェスティバル'19」を開催し、ご家族連れなど、たくさんの参加者でにぎわいました。



●保育士ヒーローブレイクショー
“仲間づくり”や“いじめ問題”などを
テーマとしたアクションステージショー



●こども広場
くじ引き・すくいコーナー、かぶとむし(幼虫)昆虫教室



●コンサート&お話
楽しく歌う夫婦「ケチャップマヨネーズ?」による、
「人権・家族が仲良くなること」をテーマにした、
年齢・障がいの有無を問わず子どもから大人まで、
楽しめる、うごく絵があるコンサート。



●三味線餅つき
唄と三味線やカネ、太鼓などの鳴り物にあわせて、
絶妙なタイミングとスピード感でつく餅つき。
観客の参加した体験コーナーもにぎわいました。



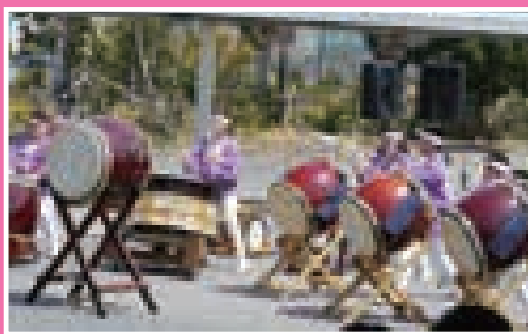
●和太鼓演奏と体験
NPO法人「太鼓の楽校」により、タイミングや強弱、
決めポーズなど、息の合った、一体感のある和太鼓
演奏が披露されました。参加者が実際に打ってみる
ワークショップは大勢の来場者が参加し、
笑顔も交えて盛り上がりしました。

クローズ
アップ

「太鼓の楽校」

年齢、性別、障がいの有無を越え、様々な人が一緒になって和太鼓を通じて郷土芸能を楽しめるよう、県内外において年間60回以上演奏活動をされています。昨年の秋には、和太鼓演奏でイタリア・トリノの国際交流イベントに出演し、現地の学校訪問も行いました。

また、2020年の東京パラリンピックの開会式行事で、全国の障がい者を含む1500人規模の和太鼓演奏プロジェクトを実現させるため、様々な取り組みをされています。



(音声コード)

あいぽーと徳島イベント情報

あいぽーと通信 49号

- あいぽーと徳島 サテライト講演(公演)会
- “あわ”じんけん講座(校種別実践力向上講座)

申込不要
参加無料

みんなの学校が今、教えてくれること

- 講 師 / 木村泰子(きむら やすこ)さん(大阪市立大空小学校初代校長)
- 日 程 / 7月22日[月]午後2時～午後3時30分
- 会 場 / 徳島県立総合教育センター ホール(板野郡板野町犬伏字東谷1-7)

※ 当日午前8時の時点で板野郡内に警報(暴風・大雨・洪水)が発令されている場合は、開催中止

第2回 県民講座

外国人労働者の人権侵害をどう防ぐか 支援者が知るべき問題の構図

申込不要
参加無料

- 講 師 / 今野晴貴(こんの はるき)さん(NPO法人 POSSE代表理事)
- 日 程 / 8月7日[水]午後1時30分～午後3時30分
- 会 場 / 沖洲マリンターミナルビル 2階「マリンホール」

※ 当日午前11時の時点で徳島市に警報(暴風・大雨・洪水)が発令されている場合は、開催中止

◎次の事項を希望される場合は、あいぽーと徳島までご連絡ください。(サテライト講演(公演)会については7月5日まで・第2回県民講座については7月15日まで)

●ヒアリンググループをご利用される場合(受信機貸出可・数に限りがあります) ●要約筆記をご希望される場合 ●手話通訳をご希望される場合

■主催・問い合わせ／あいぽーと徳島(徳島県立人権教育啓発推進センター)Tel.088-664-3719

人権教育啓発リーダー養成講座

- 対象者：市町村の人権教育啓発担当者及び教職員、人権教育啓発に関する団体に所属する方等
- 会 場：沖洲マリンターミナルビル・マリンホールほか
- 参加無料 ●主催・問い合わせ／あいぽーと徳島

回	開催日時	テ マ	講 師
1	6月20日[木] 13:30～15:30	職場のハラスメント問題を考える	内 藤 忍 さん 独立行政法人労働政策研究・研修機構(JILPT) 副主任研究員
2	7月18日[木] 13:30～15:30	多様な性をつなぐ社会 ～LGBTについて～	堤 あやか さん NPO法人LGBTの家族と友人をつなぐ会 前理事
3	8月2日[金] 13:30～15:30	スマホ・ネットリテラシー ～スマホ・ネットの使い方	黒 田 恵 裕 さん 奈良県高等学校教員
4	9月5日[木] 13:30～15:30	ハンセン病家族の物語	黒 坂 愛 衣 さん 東北学院大学経済学部共生社会経済学科准教授
5	10月10日[木] 12:30～15:30	同和問題と人権のまちづくり(現地研修)	太 田 恭 治 さん あとりえ西濱主宰
6	11月21日[木] 13:30～15:30	いのちの重さを見つめ続けた18年 ～愛(かな)しみと共に生きる～	本 郷 由 美 子 さん グリーパートナー歩み 代表
7	12月19日[木] 13:30～15:30	性犯罪被害とたたかうということ	小 林 美 佳 さん エッセイスト
8	1月23日[木] 13:30～15:30	日本のこどもたちの今	森 山 誉 恵 さん 認定NPO法人3keys(スリーキーズ)代表

夏休み子ども体験プログラム この夏もいっしょに特別な体験をしよう!!

回	日 程	内 容	場 所
1	7月21日[日] 10:30～13:00	わくわく農業体験	岡本さんちの畑(名西郡石井町高原)
2	7月25日[木] 10:30～11:45	すず虫 昆虫教室&家づくり	社会福祉法人 大麻福祉の町「板東の丘」(鳴門市大麻町板東中谷8-4)
3	7月31日[水] 9:50～12:00	新防災体験「まなぼうさい教室」	徳島県立防災センター(板野郡北島町鯛浜字大西165)
4	8月3日[土]・4日[日]10:00～15:30	ちりめんモンスターをさがせ	沖洲マリンターミナルビル2階マリンホール(徳島市東沖洲2丁目14)
5	8月6日[火] 13:30～15:00	ゆりり コンサート	社会福祉法人白寿会「阿波老人ホーム仙寿園」(徳島市住吉4丁目12-10)
6	8月8日[木] 13:30～15:00	マスコミ機関訪問学習	徳島新聞社／四国放送(徳島市中徳島町2丁目5-2)

- 対象:子どもとその保護者など
- くわしくは あいぽーと徳島ホームページをご覧ください。お問い合わせください。
- 要申込(まる4 ちりめんモンスターをさがせは申込不要です。)
- 主催・問い合わせ:あいぽーと徳島

人権相談のご案内

あいぽーと徳島では、人権擁護委員・弁護士による人権相談を行っています。まずは電話にてご連絡ください。

Tel.088-664-3701

一人で
悩まず
お電話を

- 人権擁護委員による相談
第2・第4土曜日(10:00～16:00)
- 弁護士による相談(要予約)
第1・第3金曜日(13:00～16:00)

面接相談及び
電話相談

面接相談

[編集・発行]

あいぽーと徳島

徳島県立人権教育啓発推進センター
指定管理者 特定非営利活動法人 徳島ヒューマンネット
〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目14 沖洲マリンターミナルビル内
Tel.088-664-3719 Fax.088-664-3727

あいぽーと徳島 検索 <http://www.aiport.jp>

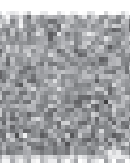
- 開館時間／午前10時から午後6時まで
- 休 館 日／月曜日(祝日の場合はその翌日)
- 年末年始(12月29日から1月3日まで)

■公共交通機関のご案内 JR徳島駅から徳島市営バス【中央卸売市場】行きに乗りし、【沖洲マリンターミナル】にて下車



駐車場
案内

お車を利用の場合、ビル西側駐車場の「あいぽーと徳島」と表記のある赤いコーンの場所に駐車してください。
満車の場合は、ビル北側の東営有料駐車場をご利用ください。
●4時間まで 200円



(音声コード)



認知症を理解しよう～寄り添い方と介護のコツ～

あいぽーと徳島 第1回県民講座 ●令和元(2019)年5月29日実施

講師

加藤 忠相さん

株式会社あおいけあ 代表取締役

内容

■質の高い介護・介護施設の
成功事例とま

介護施設の経営者の中には、「介護職員の人材の質が低い」と言う人もいますが、何を持って質が高いとか低いというのでしょうか。キャリアの長さ、人柄、資格を持つているかどうかなどで決めることができるのでしょうか。『質の高い介護』って、どのようなものですか?」と問いかけてもはつきりと答えてくれる人はなかなかいません。何をもって「質が高い」と言えるのが明確でないと、人材育成なんてできません。

また、「『成功事例』って、何ですか?」と問いかけても、答えがなかなか出てこないということは「毎日ルーティンワークをしているスケジュールを予定通りこなす」のが介護になってしまっているのかもしれないかもしれません。成功事例が浮かばないということは、達成感のない介護をしているのかもしれない。

■株式会社あおいけあ〴〵の考える 成功事例

認知症のあるSさんという、じいちゃんのお話です。「周りの人がいて、俺がいるから、できることは何でもするんだ」というのが口癖の頑固な方で、元・表具師さん。事業所にやつてくると「この家具はなつてねえな。」と家具作りをはじめます。※表具師…ふすまや屏風を仕立てる職人

「死ぬまで自分の足で歩くんだ」と言つて、職員のかの散歩をかつて出たり、天

気の良い日は江ノ島に散歩に行ったり。そんな元氣なSさんがある時、体調を崩し、受診した病院で余命半年の宣告を受けます。すい臓がんが見つかったのです。それからしばらく経ち、Sさんは食事もほとんど食べられなくなり、医師からは余命2週間との話があった頃でした。僕が仕事で北海道に行っている時「スタッフから「Sさんと湯河原の温泉に行ってきます」とメールがありました。目的は、Sさんの奥さんが生きていたとき、家族で行った思い出の場所でした。

うちの事業所にマニュアルはありません。僕は、スタッフに「目の前のいいちゃんばあちゃんたちに何をするのか、何ができるかを考えるのが、介護の仕事」と、そしてリーダーには「指示を出すことではなく、みんなが考えることができる環境をつくることを考えることが、リーダーの仕事」だと伝えていきます。

リスクの大きい旅ですが、Sさんもご家族もそれを望んでいる状況で、僕も電話口でスタッフに「気を付けてね」と伝えました。でも、電話を切った瞬間、ちよつと笑ってしまいました。「今さらこの期に及んで、何に『気を付ける』のだらう？」と。

もうほとんどご飯を食べれなかったSさんは、この日はおいしそうにたくさん普通の食事を食べて、ビールもごくごく飲んだそうです。温泉にも何回も入りました。Sさんが亡くなったのは、その5日後でした。

成功事例と言いましたが、「あと2週間」という見立てより早く亡くなられたので、「失敗事例じゃないか」と言う人もいるかもしれません。でも、スタッフが

このエピソードを書いて、あおいけあのSNSに投稿したところ、日本国内だけでなく、世界中から「いいね！」やシェアをされ、共感の声がたくさん届きました。色々な意見があると思いますが、なぜこのエピソードが世界中の多くの人から共感されたのかを考えると、思っているように、

■「お世話をする」から
「自立支援」「地域共生」へ

Sさんの事例を僕がなぜよいと感じているかというと、本人の想いに最期まで寄り添えたことが理由です。

多くの介護職員は、目の前の大好きなじいちゃん・ばあちゃんの最期の時に立ち会えていないと思います。それは多くの介護施設では、「何かあれば救急車を呼ぶ」といったマニュアルで動いていて、「ここまでは介護、ここからは看護・医療」と考えてしまっているからです。「ここからはお願います」とパスをすることではなく、地域社会や家族の中にあるその人の生活のほんの一部に医療や介護があり、必要なときに支える、一緒に看取るのが医療介護連携ではないでしょうか。

1963年に制定された老人福祉法では、介護は「療養上の世話」でした。でも、2000年に介護保険法が始まってから、僕らの仕事は「自立支援」に変わりました。介護は福祉から社会保障へ、またこれからは「地域共生」へと向かっています。

■認知症とこれからの認知症介護に求められるもの

認知症は病名ではなく、腹痛と同じような「症状」のことです。70種類程の様々な原因病によって、脳細胞が衰退してまうことで起きる記憶障害・見当識障害・実行機能障害などの症状を認知症と呼ぶのです。不安・幻覚・徘徊・うつ症状などの「行動」を認知症と思っている人が多いですが、それは違います。この行動は、病気で困っている人が、さらに困ってしまう環境におかれたことで、出てきているものです。いい環境といい心理状況をつくることはできるので、その人が何が好きで、何が苦手で、何を誇りに思っているか等の情報（アセスメント）を頼りに、病気で困っている人に症状が出ないように助けるのがケアなんです。

介護職を目ざし研修している人には、「じいちゃん・ばあちゃんが好き」「人の役に立ちたい」そんな思いを持つ人がたくさんいます。でも、優しい思いを持った研修生たちが、実習に行つて、嫌になつて別の業界に行つてしまつたり、働き始めても「こんなはずじゃなかった」とすぐに辞めてしまうことがあります。介護の仕事って何なのか。僕らが誇りを持つて働ける介護現場って、どんなところなのか。それらをきちんと見直して、ルーティンワークではない職場を作っていくことが、求められているのではないのでしょうか。

■高齢者を社会資源に
高齢者と地域をつなぐ

あおいけあは、地域との壁をなくし、敷地内の通路は、地域の子どもたちや通勤の人たちが、自然に通って抜けて行き

ます。コミュニティレストランや珈琲屋、地域の人が自由に使えるフリースペースもあり、地域の子どもたちが勉強していたり、お母さんたちのたまり場になっていたりします。地域の人がご飯を食べに来ると、ばあちゃんたちが皿洗いをし、障がいのある人も自然に働いています。やってきた人は、そこにいる人が認知症とか障がい者とは、きつと思わないでしよう。

地域の人がかわる様々な場を作ることが大切です。じいちゃんばあちゃんと一緒に掃除して、お茶を自分で入れてもらう。掃除ができるなら竹ぼうきをもつて外に出ていき、地域の掃除をする。庭の手入れをしてもらうなら、近所の公園にいつて植栽を行い、人の役に立つ仕事にする。職員が子どもを連れてくると、ばあちゃんたちがお世話をしたり、洋服を作ったり…。認知症のおばあちゃんが先生になつて漬物のつけかたを若い人に教える。認知症の人は介護される人ではなくて、認知症の人が得意なことでみんなのお世話をしているんです。「自分は役に立っている」と感じてもらう。それが自立支援であり、ソーシャルワークなんです。地域に出ていつて、じいちゃんばあちゃんを社会資源にし、地域の人には認知症のイメージを見直してもらうこと。介護の目的は、転倒させないことでも、風邪をひかせないことでもなく、医療や介護によつて、地域社会の中で質の高い生活を送り続けることです。

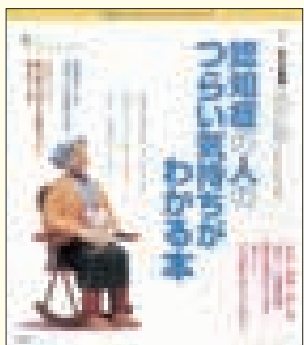
世界で二番高齢化が進む日本の介護は、世界中から注目されています。これから先、「日本は失敗した」とみられるのか「やっぱり日本人はすごいな」と思われるかは、介護をしている皆さんにかかっていると思います。

認知症に関する図書・DVD情報

あいぽーと徳島では、認知症に関する図書やDVDの他、
人権に関する資料を無料で貸し出しています。ぜひご利用ください。

圖書

「認知症の人の
つらい気持ちがわかる本」
講談社
杉山孝博 監修



圖書

「こころがスッと軽くなる
ボケた家族の愛しかた」
高橋書店
長尾和宏 監



DVD

「ここから歩き始める」
企画 兵庫県／
(公財)兵庫県人権啓発協会



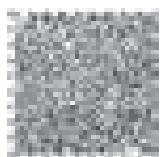
DVD

「永遠の記憶
～認知症を知る～」
企画・制作 鹿児島文化企画

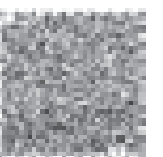


障がい者問題学習

6月7日(金)、吉野川市立知恵島小学校4年生があいぽーと徳島に来館。車いす・アイマスク体験と施設見学により、障がい者問題について学習されました。



(音声コード)



(音声コード) =